

令和5年度

# 柿原小学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 論理的思考力・表現力の育成と言語活動の充実
- 主体性と継続力・学び合う力を育む学習活動(授業)の充実

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 筒井 美帆	委員	校長:松本 珠実	教頭:河野 恵子
		教務主任:原田 理恵	
		研修主任:佐光 祥子	
		特別支援教育コーディネーター:原田 理恵 杉本 明日香	

校長

松本 珠実

### ◎次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

#### 【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読みや整数の四則計算などの基礎的・基本的な知識・技能が身についている児童が多い。 ●漢字や九九などの基礎的・基本的な知識・技能の定着の差が大きいのが課題である。	・整数の四則計算を確実に行うことができる。 ・語彙を増やし、正確に文章を読んだり、書いたりすることができる。	・読み書きの力をつけるために、作文読本や新聞記事を活用する。 ・習熟度別のプリントを用意したり、漢字や計算の小テストを実施したりする。 ・タブレットドリルを活用し、基礎的・基本的な練習問題を繰り返し行う。	発達段階や能力に応じてタブレットを積極的に活用できている。一方で新聞記事の活用や小テストの実施については十分でない学年が多いので、モジュール等の時間を有効活用し、改善に努めていく。	・どの学年もタブレットを基礎学力の向上に有効活用することができた。 ・新聞を読む時間を設けたり、記事を読んで感想を書いたりすることができたが、新聞を活用できていない学年もあった。 ・小テストを計画的に実施できた。	タブレットを小テストの実施や個人に応じたプリントの配布、新聞記事に線を引くなどした読み書きの練習に取り入れていくなど、使う場面をよく吟味し工夫しながら基礎学力の育成に役立てていく。

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話形やホワイトボードをもとに、自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる。 ●資料や他者の意見から状況を想像したり、新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・話し合い活動を通して思考を深め、問題解決に取り組むことができる。 ・根拠や理由を用いて、自分の考えを説明したり、文章に書き表したりすることができる。	・朝の会や帰りの会におけるスピーチの時間に、質問や感想を言う時間を設ける。 ・話形や話し合いのモデルをもとにペアやグループ活動を積極的に取り入れる。 ・タブレットやホワイトボードを効果的に活用し、友達と意見交流する機会を設ける。	スピーチでは、テーマを決めたり話形を示したりするなど工夫することができている。話し合い時にタブレットを活用している学年も増えつつあるので、今後もより効果的に意見交流できる方法を考えていく。	・ペアやグループ活動を積極的に取り入れることで、自分の意見を言う機会や児童同士の意見交流を増やすことができた。 ・毎日朝・帰りの会で、スピーチタイムや質問タイムを設けることができた。	今後はタブレットを活用した発表や話し合い活動の機会を増やしていく。話形や声のものさし、メモの取り方など、話し方・聞き方の指導を充実させる。作文読本で文章を書く楽しさを実感しつつあるので、作文の投稿を増やす。

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に真面目に向き合い、課題にも一生懸命取り組むことができる。 ●家庭学習や読書、苦手な学習内容の克服等に、計画的、継続的に取り組むことに課題がある。	・家庭の事情や発達段階に応じた家庭学習や読書の習慣を身に付けることができる。 ・苦手な学習にも最後まで粘り強く取り組むことができる。	・学習のめあてや振り返りなど、自分の学びがわかるノート指導を徹底する。 ・教材に関連した本の紹介や週末読書の実施を積極的に行う。 ・家庭学習の取組状況について1ヶ月に1週間チェック表で振り返る機会を設ける。	学習教材の関連図書を積極的に紹介することができている。学習の振り返りについては、十分に時間が取れていない学年が多いので、効果的で簡単にできる方法を工夫していく必要がある。	・読書活動に個人差があった。 ・月に一度生活チェックを行っているが、生活の見直しや家庭学習の充実等に十分つなげることができなかった。 ・めあてや学習の流れの提示はできたが、振り返りはあまりできなかった。	引き続き、絵本の読み聞かせや本の紹介、読書カードの活用等により、児童の読書活動の充実を図る。生活チェック表をもとに、目標を設定したり、児童に声かけしたりするなど、有効活用できるようにする。

## 令和5年度 学力向上ロードマップ

